
終焉

よしぼう

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

終焉

【Nコード】

N1721D

【作者名】

よしぼう

【あらすじ】

人との繋がりで、大切なものは何なのか…ほんとの友達とは何か、考えさせられる。

（前書き）

たかがお金…されどお金。人はみな、お金を自分の価値観と基準を定め、決してそれだけじゃないって理解する必要もあるはず。

行きつけの、半ば隠れ家的存在ね小料理屋に
今日は尊敬する先輩を連れて来たからと…仕事仲間の後輩に接待さ
れてしまった。

喜んでいいのか、嬉しいのか、ひたすら呑むスピードは早く、自分
のグラスが空く頃には3杯目に突入する勢い。
ほろ酔い気分で大将らしき人物に、自分が尊敬する人物であると淡
々と誉めちぎる後輩。

いつの間にか、目はうつろになり、呂律が回らなくなりながらもト
イレに駆け込んでしまった。

後輩のいない間に、大将が話しかけてきた。

よほど嬉しかったんでしよう。友達と呑みに来るなんて久しぶりで
すから…と、優しい眼差しで語りかけてきた。

10才年上の僕だが、話の内容は一寸の違和感もなく付き合ってる。
若い子が性に合ってる気がする。屈託ない会話が、この年になると
心地よいのだろうか。

ひとり干渉に更けりながら…かれこれ30分にはなるつかとしてい
る。暴君はへたれこんでるのか…。

すかさず、トイレにうずくまった後輩を抱きかかえて、店を跡にし
た。

タクシーに押し込んで、安堵のため息をつく自分に苦笑いしたもの
だ。

あれから一年…仕事も別々になり、彼とも疎遠になった頃、偶然に
も電車の改札口ですれ違った。確かに視線は合った。確実にお互い
を認識したはずだ。

一年前、急な出費に見回れ、彼も知ってる仕事仲間数人からお金を

借りた。今だに全額は返済しておらず…自分が去った後に、その事が会社内で噂になった様子を遠まわしに聞いた事があった。不思議と、彼にはお金の無心をしなかった。今だに何故なのか自分でも理解出来ない。

そんな出来事が…彼の自分に対する反発だったのだろうか。尊敬する先輩像に違反してしまったのだろうか。

どこことなく不愉快な…

どこことなく……。

何事もなかったかの様に、彼は足早に新しいであろう仕事先に向かって行った。

それはあたかも、あの小料理屋での全てが夢物語だったかの様に、冷たく寂しい後ろ姿に見えた。

(後書き)

公私混同はいけないけれど、人はみな完璧ではない。いかに補い合うか、そこにこそ信頼が生まれるはず。結果論だけで片付けられる社会に、少なくともひとりひとりが気付く事こそが、生きる意義だと思ふ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1721d/>

終焉

2011年1月16日02時12分発行